

## アソカ講話037

### テーマ「苦難は幸福の門」

小さな人生論第1巻6章に苦難は幸福の門というテーマで次の言葉が載せられている。

「苦難は生活の不自然さ、心のゆがみの映った危険信号であり、ここに幸福に入る門がある。従って、苦難を忌み嫌うのではなく、喜んで取り組み、苦難の原因になっている生活のあやまり、心の不自然さを取り去ると、かつ然として幸福の天地が開けてくる」と。

人は時に病気や事故、トラブル等困難と思えることに会う。その連続という人もいるだろう。しかし、その苦難は、苦難を通して私達に何かを語りかけているのだと言う。その何かとは、幸福に至る道筋であり方法だと言うのである。

私達は苦難に向かう時、その前に見える門の文字は苦難の門に見える。

しかし、その苦難の門をくぐり抜けて振り返ると、幸福の門と文字が書きかえられていることに気づく。自分が本当の自分になるために、人生には苦難と思えることも、自らを成長させる幸福の門として用意されているのである。朝顔も夜の冷気と闇がなければ花が咲かないと言う。私達も冷気と闇という困難がなければ自分の花が開かないのだ。困難に感謝したい。